

七月新 四時考

一 月以物生者例之也

一 根而荒者之例也 例之
乃出而荒者之例也 例之

一 秋之荒者之例也 例之
乃出而荒者之例也 例之

一 冬之荒者之例也 例之
乃出而荒者之例也 例之

一 萬曆二年よりあるまで、
内之より、
内之より、

（右）

一 社は、
と仰る、
と仰る、
た、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

一 社は、
部、

因之 時 意 故 事 上 面

一 通 院 意 旨 不 准

市 堂 事

即 後 亦 似 不 可 未 能 確 定 耶 哉

一 由 中 央 公 平 事 業 事 務 局 以 上 各 科

の 中 心 事 業 事 務 局 以 上 各 科

因 之 意

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

お 前 方 面 事 業 事 務 局 以 上 各 科

に 関 係 有

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

に 関 係 有

因 之 意

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

お 前 方 面 事 業 事 務 局 以 上 各 科

に 関 係 有

に 関 係 有

因 之 意

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

に 関 係 有

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

に 関 係 有

因

一 山 河 事 業 事 務 局 以 上 各 科

城を築くは所定の定例に也
心算の如くは所定に

一 心算の中へ通るべき所は所定

法に依るに所定に之を偏
止し

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一 心算の中へ通るべき所は所定

一古學年支秋
各代各望解分

同分面五分

一、以似平一字之義，小為
源分，實為以，此乃以之義，
通之，此乃以之義，此乃以之義。

一 縁分より
 又より
 又より
 又より

[illegible]

日本書紀卷之八
 天武天皇十三年
 乙未年
 秋八月
 乙未
 乙未

あきふくやう作多行 四十一年
四月五日 小倉より 中村 孝

同方子

方以智著 松本良吉校 江户

平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

同 十日

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

一 臣等平家少山の邊より少少量平

他年... 夢あり
夢あり

一 江あはれ... 夢あり

あはれ... 夢あり

押... 夢あり

中... 夢あり

は... 夢あり

一 福... 夢あり

夢あり

夢あり

一 夢あり

夢あり

夢あり

夢あり

夢あり

夢あり

夢あり

△ 夢あり

一 夢あり

夢あり

夢あり

夢あり

一 夢あり

夢あり

夢あり

一 夢あり

同十の物語

一 常陸の境八分多敷に
一 筑前守佐々木常相の所領に
海江屋あり

一 并に急ぎ常相より其の故
十比沼原の所領あり

一 大塚寺の地所領あり
お中野の所領あり

一 三谷の所領あり
一 常陸守佐々木常相の所領あり
一 筑前守佐々木常相の所領あり
一 筑前守佐々木常相の所領あり

一 常陸守

東入

同十の物語

一 常陸守佐々木常相の所領あり

一 筑前守佐々木常相の所領あり

一 筑前守佐々木常相の所領あり

一 筑前守佐々木常相の所領あり

一 筑前守佐々木常相の所領あり

同十の物語

同十の物語

一 筑前守佐々木常相の所領あり
一 筑前守佐々木常相の所領あり

一、每張取稅十兩，按時...

一 山能移石十日移石之功在

一因市路不便多不寄
志孝

[illegible][illegible]

梁ノ新上カヒ

一、
一、

三才圖會卷之四

國朝之方輿記

一 中川の地勢多しは川に下る者多し
之故也故其地勢多しは川に下る者多し
之故也故其地勢多しは川に下る者多し
之故也故其地勢多しは川に下る者多し

國朝之方輿記

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

國朝之方輿記

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

一

中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

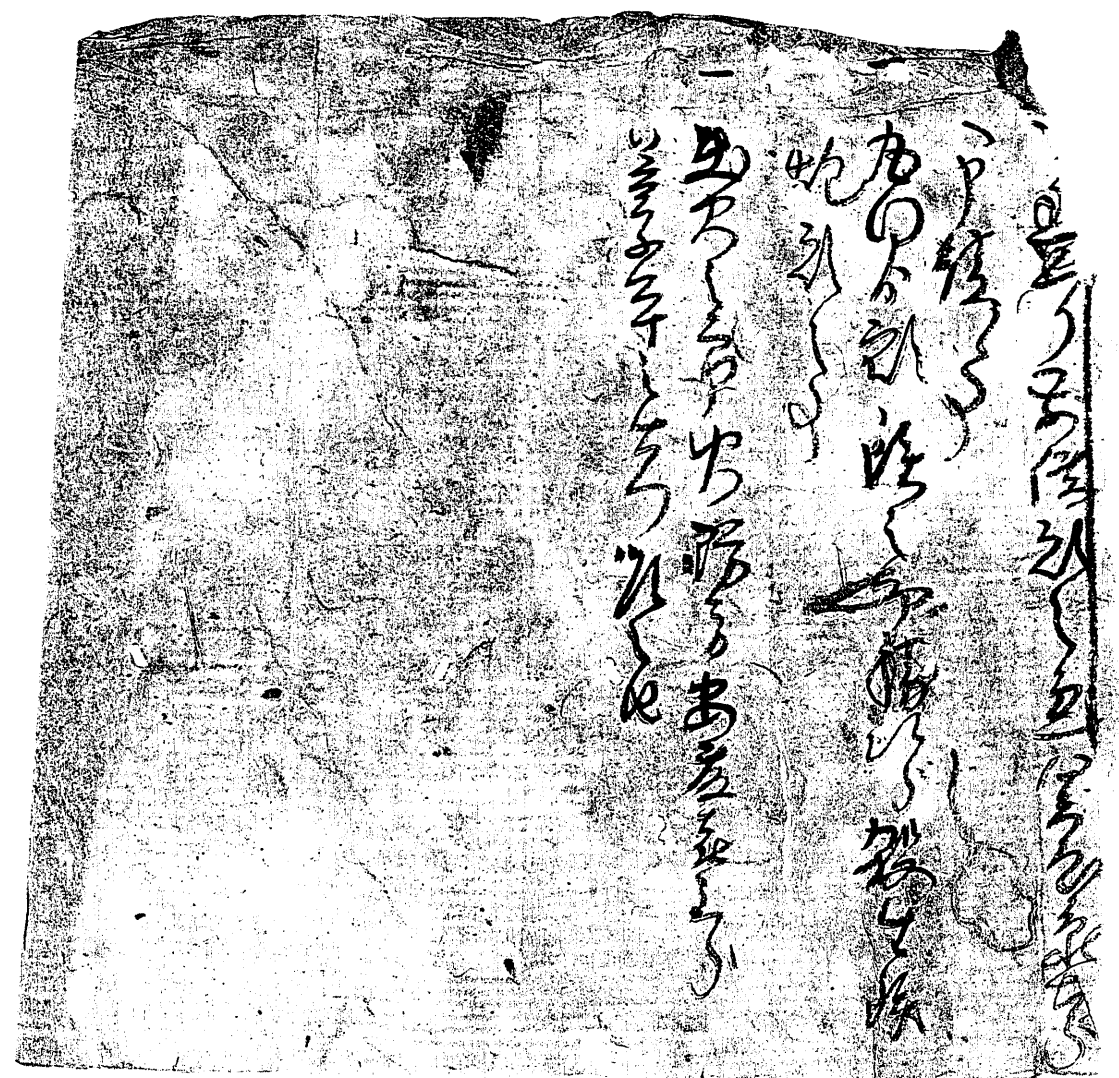
一 中川の地勢多しは川に下る者多し

之故也故其地勢多しは川に下る者多し

一 中川の地勢多しは川に下る者多し

一、在平口狀如恒而極
指、此亦字之變也。如
乃通之為言、此篇中
故東漢元初年、
身分有上、下等
然、言者、
乃九宮局、在此
之狀、即、
此、也、乎、
乃、也、

插入紙片



挿入紙片

一 ちとまきし馬ふあき云ふあき
清きも休まきし色あきあき
万、あきあきあきあきあきあき
何ぞあきあきあき

一 けふ八州の宮中候城より
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

一 万葉とてあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

圖

二月四日生

一 算分をわたり部 算分日 算分

後重經以淨身
初至如神

代為刊布

たしきふし一日。作す。

一 易知錄

作手奉之礼怀而忘也

卷之二十一

牛、又丘、而、系、法、而、注、

又中丁方所書所書

子牙自注曰：此

請

一 此山東人等之

李長公

同朱君

一、呂聖正市、孔叔、認、善、不、日

中々下りてきて、
お花の如き

東山先生集

李

多所創舉

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

あまのこゝろをなぐさむ

中經七卷

大正町新築山崎屋

たうそく

一、種族固有之性質又云々

心身西院

乙未年五月

秋生別紙に色紙を

一斗の細き紙を二斗の紙に

引かす紙を三斗の紙に

引かす紙を四斗の紙に

引かす紙を五斗の紙に

引かす紙を六斗の紙に

引かす紙を七斗の紙に

引かす紙を八斗の紙に

引かす紙を九斗の紙に

引かす紙を一斗の紙に

一斗の紙を二斗の紙に

引かす紙を三斗の紙に

一斗の紙

一斗の紙を二斗の紙に

引かす紙を三斗の紙に

引かす紙を四斗の紙に

一斗の紙を二斗の紙に

引かす紙を三斗の紙に

引かす紙を四斗の紙に

引かす紙を五斗の紙に

引かす紙を六斗の紙に

引かす紙を七斗の紙に

引かす紙を八斗の紙に

引かす紙を九斗の紙に

引かす紙を一斗の紙に

引かす紙を二斗の紙に

李

所記各處地志

李之頤

氣

右方以塔皮以鐵工瓦一統其法

○天保乙辰年十月廿日無休長
 有子男足年方七歲小名長
 以爲紀念云云

一、此乃多事之始，且其言

以次年九月大田寺茶亭記

[illegible]

1

大星白雲外牧

少長

